

平成30年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第7号

平成30年7月11日発行

宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/kesennumanoukai.html>

食味向上へ向けた重点取組事項

- ・生育量・葉色に応じた適正な肥培管理・水管理に取り組みましょう。

今後の管理のポイント

- ・斑点米カメムシ類の対策として、水田内の雑草防除を徹底しましょう。
- ・いもち病の発生に注意しましょう。

1 水稻生育調査ほの生育概況（移植）

- ・本吉ひとめぼれでは、草丈は平年並、莖数、葉数は平年を下回っています。
- ・志津川ひとめぼれ、だて正夢及び管内の生育も本吉ひとめぼれと同様に生育しているものとみられます。
- ・志津川ひとめぼれにおいては、幼穂が見え始めています。

表1 水稻生育調査結果（7月10日）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ 気仙沼市（本吉町）	本 年	5月15日	19.3	55.8	469.0	9.9	37.0	-
	平年比・差	+1	97%	101%	81%	-0.5	100%	
ひとめぼれ 南三陸町（志津川）	本 年	5月18日	17.2	57.3	540.1	10.3	38.8	0.0
だて正夢 気仙沼市（本吉町）	本 年	5月16日	18.6	57.4	409.2	10.3	32.7	-

注1) 平年比・差は平成25年から平成29年までの5か年の平均値と本年調査結果の比較。

注2) 志津川ひとめぼれは本年度から、だて正夢は平成29年から調査開始のため平年値はなし。

2 今後の生育予測

表2 生育ステージの予測（7月1日調査、古川農業試験場）

地帯区分	田植時期		幼穂形成始期		減数分裂期		出穂期	
	始期	～ 終期	始期	～ 終期	始期	～ 終期	始期	～ 穂揃期
三陸沿岸	5/ 7	～ 5/23	7/12	～ 7/20	7/22	～ 7/30	8/10	～ 8/17

3 直播栽培普及展示ほの生育概況（鉄コーティング湛水直播）

- ・気仙沼市本吉町の直播栽培普及展示ほの7月10日調査では、草丈は平年並、莖数は平年の85%、葉数は1.2枚少なくなっています。

表3 直播栽培普及展示ほ生育調査結果（7月10日）

品 種 地区名		播種日	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市（本吉町）	本 年	5月15日	44.8	498.3	8.3	35.5
	平年比・差	+1	104%	85%	-1.2	90%

注) 平年比・差（参考値）は平成26年から平成29年までの4か年の平均値と本年調査結果の比較。

4 気象の概況

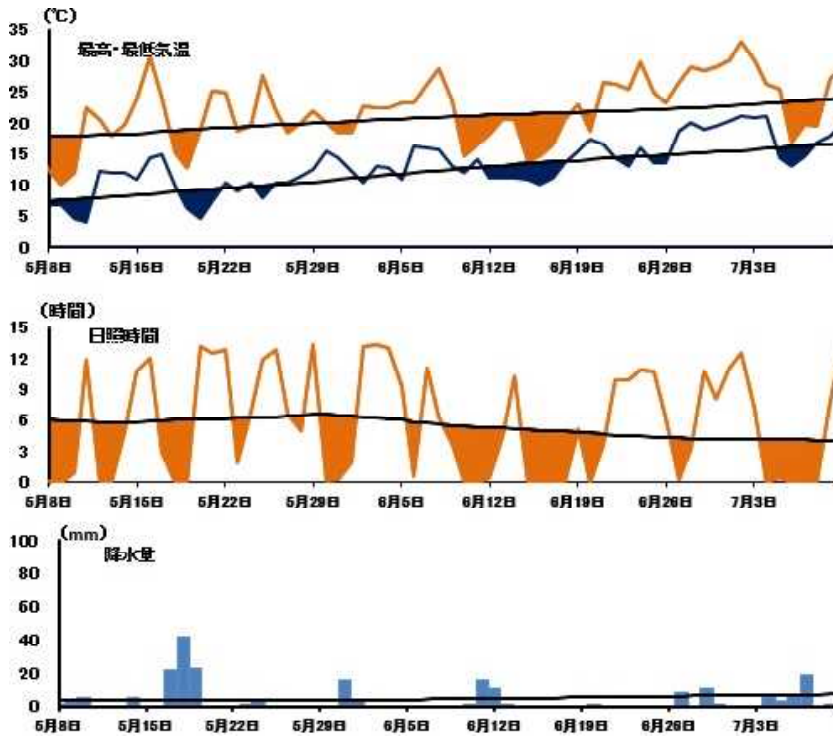


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月8日～7月9日）

5 今後の管理の留意点

【今後の水管理】

- 中干しは幼穂形成始期までには終了しましょう。中干し終了後は急激に湛水状態とすると根を傷めますので、最初は走り水とし、その後間断かん水としましょう。
- 根腐れが発生しやすいほ場では、飽水管理（田面の足跡に水がなくなったら水を入れ、土が十分に湿ったら排水する）を行うと、根の健全化と茎の充実に効果があります。
- 低温が予想される場合は、深水管理で幼穂を保護しましょう。

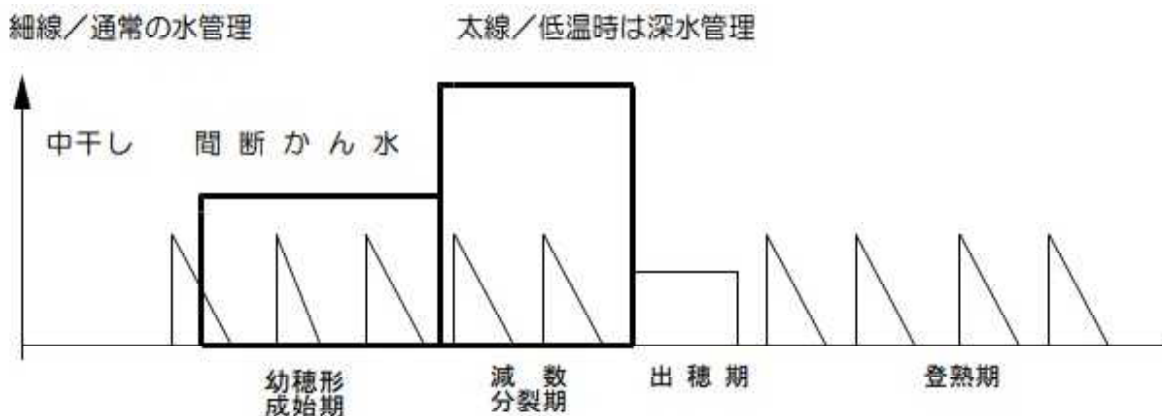


図2 中干しから登熟期までの水管理

【追肥】

- 追肥の実施により、登熟期の光合成能力が向上し、白未熟粒の発生の軽減、玄米品質や食味の向上が期待できます。
- ほ場ごとに葉色、生育ステージ及び生育量を確認して適切な追肥を行い、葉色が急激に低下しないようにしましょう（表4、表5、表6）。

表4 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ		出穂前日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期		25日前	1~2	-
減数分裂期	始期	15日前	30~40	-10
	盛期	12日前	80~100	±0

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を知ることができます。

表5 幼穂形成始期及び減数分裂始期の葉色の目安

品種名	幼穂形成始期 (出穂25日前)		減数分裂始期 (出穂15日前)	
	カラースケール (葉色板)	葉緑素計値 (SPAD値)	カラースケール (葉色板)	葉緑素計値 (SPAD値)
ひとめぼれ	4.2~4.5	37~39	3.9~4.2	35~37
ササニシキ	-	-	3.4~3.7	32~34
まなむすめ	3.9~4.2	35~37	-	-

注) 平成29年の本吉ひとめぼれの幼穂形成始期は7月15日頃、減数分裂期は7月25日頃です。

表6 追肥の目安

品種名	追肥時期別及び施肥量 (窒素分量)	
	幼穂形成始期 (出穂25~20日前) (幼穂長 1~2mm)	減数分裂期 (出穂15~10日前) (幼穂長 3~12cm)
ひとめぼれ	1.0kg/10a	1.0kg/10a
ササニシキ	-	1.0~1.5kg/10a
まなむすめ	2.0kg/10a	-

【病害虫防除】

①いもち病

- 梅雨の時期には、感染に好適な日が多くなります。水田をこまめに見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。葉いもちの発生が見られたときは、莖葉散布剤で直ちに防除してください。
- 穂いもちの予防剤は、出穂30~5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく確認し出穂期の予測に基づいて適期に散布しましょう。

②紋枯病

- 莖葉散布剤による散布適期は穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準（減収率5%、被害発生確率50%の場合）は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので、要防除水準に達した場合は、防除を行ってください。

③稲こうじ病

- 前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、適期（出穂20~10日前）に防除を実施しましょう。
- 窒素肥料を多く散布すると発生を助長することがあるため、追肥の際は注意してください。

④斑点米カメムシ類

- 病害虫防除所から7月5日に防除情報第2号が発表されました。斑点米カメムシ類の発生が早まっています（表6）。水田周辺の草刈りは早めに実施しましょう。
- 水田周辺に牧草地や雑草地がある場合は、7月中旬頃までに草刈りを行いましょう。畦畔の草刈りは7月末まで、遅くとも出穂10日前までには終わらせましょう。

表6 病害虫発生予報第6号（平成30年7月5日発行，宮城県病害虫防除所）

病害虫名	発生時期	発生量
葉いもち	やや早い（全般発生期） （7月第3半旬：7/11～7/15）	平年並
紋枯病	-	やや多
稲こうじ病	-	平年並
斑点米カメムシ類 （アカスジカスミカメ）	やや早い（第1世代成虫発生盛期） （7月第4半旬，7/16～7/20）	平年並
コバネイナゴ	-	多

- ・詳細については，県病害虫防除所ホームページ病害虫発生予報を参照願います。
（<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/h29yosatsu.html>）

5 今後の気象

東北地方 1か月予報
（7月7日から8月6日までの天候見通し）
平成30年7月5日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

		低い（少ない）	平年並	高い（多い）
【気温】	東北地方	20	30	50
【降水量】	東北地方	20	40	40
【日照時間】	東北地方	40	40	20

<気象経過の各階級の確率（%）>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	20	40	40
2週目	東北地方	20	40	40
3～4週目	東北地方	20	40	40

<予報の対象期間>

- 1か月：7月7日（土）～8月6日（日）
- 1週目：7月7日（土）～7月13日（金）
- 2週目：7月14日（土）～7月20日（金）
- 3～4週目：7月21日（土）～8月3日（金）

6月1日～8月31日は「農業危害防止運動」の実施期間です。

- ・次回の水稻生育調査は7月20日（金）に行います。
- ・次号の「気仙沼・南三陸稲作情報」は7月下旬の発行を予定しています。